

プリンター統合管理ソフト

日本市場に手応え

産業界が環境保護の意識を高めるなか、ITを活用した環境対策の取り組みが活発化している。イスラエルのプリンター（テルアビブ市）はプリント業務がもたらす環境負荷に着目。プリンターのインク使用量が半減するソフトを開発し、日本市場に参入した。オリ・アイゼンバーグ最高経営責任者（CEO）に市場性や戦略を聞いた。

インク使用量を抑制するソフトを環境保全と結びつけて導入提案しています。「プリンター統合管理ソフト『プリンターセーバー』」

プリンターCEO オリ・アイゼンバーグ氏



安全機能強化で拡販

は、プリントの品質を落とさずにインク使用量を最大50%削減できる。これによって企業が得られるメリットは大きく二つある。まず、プリントコストを年間で最低減に近づける。

「06年から本格販売を始め、現在は米国や欧州、韓国など8カ国で金融や製造、教育機関など10万以上のユーザーを抱えるまでに増の売り上げを達成し、08年も同水準の伸びを計画している。非常に速い速度で市場が形成されている」

大45%削減できること。もう一つは環境貢献活動を強化できることだ。従業員一人ひとりのプリント業務を記録・管理する機能により、自発的な環境貢献活動が期待できる。またインクの使用量が減れば使用後に産業廃棄物になるインクカートリッジなどの排出量も減り、企業全体の環境負荷低減につながる。

「日本進出の手応えは。日本にはグローバルで活躍している大手企業が数多く存在する。また紙文化の日本は、紙ベースの業務処理を削減し環境に貢献しようという意識も強い。市場性は非常に大きいと見ている。07年9月に総代理店契約を結んだIDサイエン

情報通信

ス（東京都文京区）が販売く、競合製品は存在しないなど順調に拡販が進んでいる」と考えている。

「日本市場攻略には不断の製品改良が必要だ。社内での全プリンターを管理・コントロールできる機能と、セキュリティ機能を08年内に追加する予定だ。特にセキュリティ面では社員証を通してプリンター業務を承認する機能など、企業のプリントポリシー方針の徹底につなげられるはずだ」

「他社はインク消費量の削減機能やプリント業務情報のデータベース化、レポートニングなど各機能を製品ごとに提供している。しかし、プリンター業務を統合的に管理できるソフトはな

販売チャンネル拡充が不可欠

「日本進出の手応えは。日本にはグローバルで活躍している大手企業が数多く存在する。また紙文化の日本は、紙ベースの業務処理を削減し環境に貢献しようという意識も強い。市場性は非常に大きいと見ている。07年9月に総代理店契約を結んだIDサイエン

記者の目

企業の環境を追い風に、日本でのビジネスは上々のスタートを切ったといえる。そしてその風速は今後さらに強まると見られ、ビジネスチャンスが期待される。ただ、そうした需要を取り込んでいくには販売チャンネルの拡充が不可欠。販売パートナーの役割は重要で、展開のピッチをどこまで上げられるかが成功のカギを握る。

土井俊